

平成28年度 社会を明るくする運動

最優秀・優秀作品の紹介

7月は『社会を明るくする運動』強調月間でした。この行事の一環として、児童・生徒の皆さんから作文を募集したところ、多くの作品が寄せられました。

厳正な審査を行い、受賞作品が決定しましたので、最優秀・優秀賞を受賞した作品を紹介します。

(最優秀賞のみ全文掲載)

最優秀賞 小学校の部

「社会を明るくするために」

しのだ わたる
嘉万小学校 6年 篠田 航

「社会を明るくする」とはどういうことなんだろう。

テレビや新聞などで、毎日のように暗いニュースが報道されていて、それを見るたびに僕はとても悲しい気持ちになります。そんな社会を明るくするにはどうしたらいいんだろう。家族と話していると、「社会を明るくする運動」のポスターのことを知り、僕は見てみる事にしました。

「おかえり。」

僕は最初に見た時に、不思議だなと思いました。その下にはこう書いてあります。立ち直りを決意したひとを、決してあやまちにもどさない。あなたの「おかえり」のチカラで、支えあう社会へ。

僕はもう一度考えてみました。犯罪がなくなることが一番だと思います。犯罪はやっぱりいけないことだし、それによって悲しくつらい思いをしている人がたくさんいます。だから犯罪をしてしまった人はきらわれたりにくまれたりするし、僕もニュースなどで見るだけでも、同じような気持ちになったり犯罪した人が近くにいたら、やっぱり怖いなと思います。

でも犯罪をしてしまった人も最初から悪い人なわけではないんじゃないかなと思います。だから、本当に悪かったと反省し、立ち直って生きていこうと決めてまたもどってきたときに、だれにも相談

できなかったり、だれにも受け入れてもらえないでひとりぼっちになってしまったら、どんどん暗い気持ちになって、また悪い心がでてしまふんじゃないかと思います。そして、また犯罪をしてしまう人がたくさんいるということも聞いたことがあります。

僕も友達や家族とけんかをしてしまった後に、悪かったなと思って反省するけれど、相手に許してもらえないんじゃないかと思って、なかなかふつうにできなかったり、声をかけられなかったりすることがあります。でも勇気をだしてはなしけた時に、またふつうにはなしてもらえないで、落ちこんでいるときにだれかに「大じょう夫」と優しく声をかけてもらったりすると、すごくほっとしてあたたかい気持ちになるし、また頑張ろうと前向きな気持ちになります。

だから社会を明るくするには、「おかえり。」なのか、と僕はなんとなくわかった気がしました。助けてくれたり、応援したりしてくれる人がいると、気持ちが明るくなるし、安心できます。もう悪いことはしないで一生けん命に生きていこうとおもえるんじゃないかと思います。

社会を明るくするために、僕ができるることはなんだろうと考えてみました。まずは周りに困っている人がいたら声をかけたり、応援したり助けたりすることからはじめてみようと思います。自分が出る事を少しずつじっせんしていきたいです。

最優秀賞 中学校の部

「全部同じ私だから」

なかもと あかね
秋芳中学校 3年 中本 朱音

「キモイ」

「嫌い」

「死ねばいいのに」

これらは今までの私が言った言葉のほんの一部です。どれも相手を傷つける言葉、言ってはいけない言葉です。そんな言葉をたくさん使っていた私が「言葉」について深く考えたのは中学一年生の時です。

きっかけは一年生の時の離任式でとある先生がおっしゃられた言葉です。その言葉を聞くまでの私は日常的に

「死ね」

「キモイ」

といった言葉を使っていました。

「皆使ってるから言ってもいいや。」

そんな軽い気持ちで相手を傷つけていました。私は昔から短気ですぐに怒ってしまう所があります。相手が何かしてきて腹が立つたらすぐに相手の気持ちを考えずに鋭く尖った言葉を言っていました。何回もそれで喧嘩になりました。別に傷つけたいわけではないけれど口について出てしまうのはそんな言葉でした。

「何でそんなことをいうん！」

「そっちだっていつもいうじゃん！」

そんな言葉で始まる喧嘩。自分が悪いのは分かっているけれど謝りたくない気持ちが強くてなかなか

か素直に謝ることができませんでした。そんな事が何回もあって私はいつも怒っているような顔をしていました。離任式の日も少しの事で喧嘩になりイライラしていました。もやもやとした思いがある中始まった離任式。少し集中できなかった時に聞こえた言葉は、

「はあっと息を吐くと暖かい息、ふうっと吐くと冷たい息を吐くことができます。どちらも同じ人からでてくる息ですよね。言葉も同じです。冷たく人を傷つける言葉も温かく誰かを幸せにする言葉もどちらも皆さん自身の口から出るもので。だから温かい言葉を言える人になって下さい。」

その言葉を聞いて私ははっとしました。なぜなら意地つ張りな私の中にもきちんと

「ごめん」

と伝えて仲直りしたいと思う私がいると気付いたからです。いつもいつも相手を傷つけるような言葉ばかりを言う私もごめんなさいと謝りたいと思っている私もどちらも同じ私なのだと分かりもやもやはいつの間にか消えていました。それからは暖かく優しい言葉使いを心がけ喧嘩も減りました。もしも喧嘩をしてしまってもすぐに

「ごめん」

と謝ることができるようになりました。あの言葉を聞いてから私は人の心を動かせる言葉とはとてもすばらしいものだと思うようになりました。

言葉とは大人から小さな子供まで誰でも使うことができる便利なものです。自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを知ることもできます。でも使い方を間違えれば相手を傷つけてしまう刃へと変わります。自分勝手な思いで相手を傷つけてはいけません。友達や家族そして地域の人、どの人も大切な人です。だからこそ傷つけてはいけません。では犯罪を犯してしまった人達はどうでしょうか。悪い事をしてしまった、誰かを傷つけてもいいのでしょうか。それは違います。悪い事をした人だからといって傷つけてもいいはずがありません。確かに許されない事をしたかもしれません。自分がしたことを反省し再び歩き始めよう前を向く人達の思いを踏みにじり傷つける権利など誰にもないので

す。た痛みがわかるからこそやってはいけない、繰り返してはいけないのではないでしょうか。「再び歩き始めること」それは私達には想像できない程の勇気がいるのではないかでしょうか。誰かに合わせて傷つけるのも受け入れてあげるのもどちらも自分が行うことです。全部同じ自分だからこそ人に流されず受け入れる勇気を持ってほしい、そして私自身も持ちたいと思います。

「死ねばいいのに。」

その言葉で傷つく人がいます。

「ごめんなさい。」

自分の過ちに気付き謝れば受け入れてくれる人がいます。どちらを言うのも同じ自分で。だからこそ正しい勇気を持って温かい言葉と共に生きていきたいと深く思います。もう誰も傷つくことがないような明るい社会を作るために今一度言葉についてあなたも考えてみてはどうでしょうか。



優秀賞

小学校の部

重安小学校5年
としげりょう
利重 謙

「やさしい心を持って」

赤郷小学校6年
やまもと たかと
山本 天斗

「みんなで作る
明るい社会」

中学校の部

於福中学校2年
としげおうき
利重 旺紀

「言葉の力」

於福中学校2年
さとう みう
佐藤 未羽

「明るい社会を
つくるために」

11月は「児童虐待防止推進月間」です

「さしのべて あなたのその手 いちはやく」

虐待を受けたと思われる子どもを見つけたときやご自身が出産や子育てに悩んだときには児童相談所や市町村の窓口に連絡してください。

- 児童相談所全国共通3桁ダイヤル
いちはやく

189

問合せ先 地域福祉課 [☎0837(52)5227]